

「岩手 141 号」の現地見学会を開催しました！

久慈地域では、令和7年度から本格的な栽培が計画されている県オリジナル水稻奨励新品種「岩手 141 号」のモデル栽培ほ場を、3市町村4か所に設置しています。

この「岩手 141 号」の生育状況等を生産者や関係者に紹介するため、6月4日に第1回目の現地見学会を開催し、JA新いわて久慈稲作生産部会支部役員等水稻生産者や関係者31名が参加しました。

普及センターから、「いわてっこ」と比較した「岩手 141 号」の特性や苗調査結果等を説明し、続いて、モデルほ場の生産者から、育苗管理や田植え後の生育、従来品種との違いなどをお話いただきました。

参加者からは、「誰でも作付けできるのか」や「名称はいつ決まるのか（すでに案を考えている）」、「いつ食べることができるのか」、「いもち病の耐病性は」など様々質問が出され、「岩手 141 号」に対する関心がすでに高まっていることがうかがえました。

8月には、出穂後の生育状況を見ていただくため、第2回現地見学会を予定しており、引続き、モデルほ場を活用し、「岩手 141 号」の特性や栽培方法等について情報を提供していきます。



ほ場見学会のようす



「岩手 141 号」の生育状況